

1/29 ~ 1/30

「議会」「産業」「子育て」の3分野で展望



▲全体会のようす

福島大学小規模自治体研究所と小規模研館村実行委員会が主催する「フォーラム『小規模自治体の可能性を探る』in しいたて」が宿泊体験館さこりで開催され、村内外から約150人が参加して「議会改革」「産業振興」「子育て支援」の3分野で、小規模自治体の課題と可能性について意見を交換しました。

2日目は、全体会が行われ、それぞれの分科会からの報告を受けて、小規模自治体の生き残り策や可能性について活発に意見を交わしていました。

2日目は、全体会が行われ、それぞれの分科会からの報告を受けて、小規模自治体の生き残り策や可能性について活発に意見を交わしていました。

村・村議会共催のこのフォーラムは、これまで主に福島大学を会場に行われてきましたが、今回初めて現地（自治体）で開催されました。国や県、市町村の職員、議員、研究者など様々な立場の方がつどい、共に小規模自治体が抱える課題を議論し、解決につながることをねらいとして開催されました。

2日間にわたって開かれたフォーラムでは、1日目に菅野村長から村の中山間直接支払制度の取り組みや住民との協働による事業推進についての講演があり、それを受けて、「議会改革」「産業振興」「子育て支援」の3つの分科会に別れ、参加者がそれぞれの分野における課題や取り組みを交換していました。

1/30

いきいき子育てまでいライフ ~家族で楽しくチャレンジ~ 子育て中に一級建築士を取得した酒井美代子さんが講演



▲講演会でワークショップに取り組む参加者

村子供会育成会連絡協議会（真壁成行会長）主催の子育て講演会がいちばん館を会場に開催され、村内の育成会員40人が出席しました。

講演会は、子育てをしながら一級建築士を取得した酒井美代子さんを講師に、ワークショップを交えながら進められました。

講演では幸せな家庭のあり方や家族で過ごす時間・会話の大切さが話されました。

酒井さんは「楽しく暮らすこと、楽しい仕事、楽しく子育てすることが幸せな家庭のあり方」だと話していました。

また、酒井さんのお宅では、お正月に家族が一人ひとり目標を立て、その目標の達成に向かって家族全員が協力して一年を過ごすことにしているそうです。

ワークショップでは、参加者が村の好きなところを見つけだし、それをまとめました。酒井さんは、親が村の「人」「自然」「歴史」などを学び、宝を守りながら村の良さを子どもに伝えることがとても重要だと講演しました。



▲「議会改革」分科会

●村民の「声」を聞くことが政策形成への第1歩 —「議会改革」分科会—

村議会が今年度スタートさせた村民懇談会について■執行権がないため議会が悩むことにならないか■議会は住民の声を聞く責任があるのではないか■飯館村のような自治体では信頼関係も生まれやすいが、やり方次第では信頼が薄れる心配があるのではないか■議会が住民の中に入っていき必要性を感じた■住民の中に入っていくと住民の信頼を失うのではないか■議会改革について1歩でも2歩でも前に進む必要を感じた

各分科会の主な意見

▶「産業振興」分科会



▲「子育て支援」分科会



集落の地域振興と産業の6次化について■国でも産業の6次化を進めているが具体的なイメージに結びつかない■産業振興には地域資本と地域外資本をどのように取り入れるかのバランスが大切ではないか■「協働」する上で集落（行政区）計画に産業をどのように位置づけるかが大切ではないか■地域の企画開発能力は大切ではないか。製品加工のノウハウを外部から導入することは簡単だがそれでは地域に何も残らないのではないか

●安心・安全の産品開発と販路拡大へ —「産業振興」分科会—

●地域全体で子育て支援を —「子育て支援」分科会—

子育て支援策について■村で行っている「までい子育てクーポン」等の支援策が少子化の根本的な解決に至っていないように思う■子育ての問題には仕事・住宅・保育・医療等様々な問題が複雑に絡み合っているため、行政全体や地域が連携して取り組み、子どもを「地域の宝」としてバックアップすることが大切なのではないか■小規模自治体だからこそできる「顔の見えるサービス」こそ強みであり、着実に提供し続けていくことが大切ではないか

子育てへの関心高まる2つの講演会

2/27

「広がれ!! 弁当の日」 「までい」な子育て講演会を開催



▲「弁当の日は子どもを一人前にする親のためにある」と話す竹下さん

村商工会が主催する、しいたてむらならではの「までい」な子育て講演会がいちばん館で開催されました。

「広がれ!! 弁当の日」をテーマに元香川県中学校長で「弁当の日」を提唱した竹下和男さんを講師に行われたこの講演会は、福島県安心子ども基金活用事業を活用して開催されました。

竹下さんは、子どもが弁当づくりを体験することが子ども自身の自立を促すことや、食事の作り手の気持ちを知ることが相手を思いやる気持ちを育てる大切な機会になることなどを実際に行われた「弁当の日」の写真を使いながら講演しました。

子どもに体験させることの大切さ、親が子どもに食事をつくることの大切さを熱心に説明する竹下さんの講演に、会場に集まった約80人の参加者は静かに耳を傾けました。

また、商工会が募集した親子でつくったお弁当の写真には29点の応募がありました。「お弁当に甲乙をつけない」という観点から来場した応募者に「はなまるお弁当賞」が贈られました。



▲お弁当賞授与式では応募者に記念品が手渡されました